

たらのホイル焼き



作り方

- ① たらは料理酒を振り、塩こしょうをかけておく。
- ② 玉ねぎ、生しいたけ、人参は千切りにする。
- ③ アルミホイルにたら1切れをおき、無塩バターをのせる。その上に玉ねぎ、生しいたけ、人参をのせ、アルミホイルを閉じ、トースターで10分焼く。
- ④ いったん取り出し、アルミホイルを開け、ピザ用チーズをのせ、軽く閉じ、5分焼いたら出来上がり。

★ポイント★

- ・魚の種類は鮭でも美味しく作れる
- ・きのこの種類はえのきやしめじでもOK
- ・加熱時間は火の通り具合で加減する
- ・たらとチーズで蛋白質を摂ろう

【材料4人分】

たら 4切れ	生しいたけ 6個
料理酒 大さじ2	人参 1/3本
塩 少々	無塩バター 12g
こしょう 少々	ピザ用チーズ 40g
玉ねぎ 1/2個	



医療法人 千徳会

桜ヶ丘病院

院長 成川 暢彦

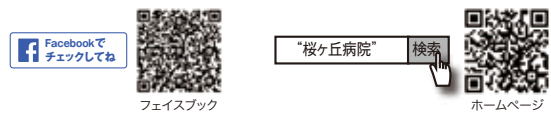
〒649-0304 和歌山県有田市箕島904
 TEL : 0737(83)0078 FAX : 0737(83)0079
 E-mail : sakura_2007@cherry-hill.or.jp
<http://www.cherry-hill.or.jp>
 ●地域連携室 TEL 0737(83)0829

診療科目等

- 内科(呼吸器・循環器・胃腸・糖尿病・脂質代謝)
- 腎臓内科(人工透析)・神経内科・脳神経外科・皮膚科・泌尿器科
- 婦人科・眼科・リハビリテーション科・放射線科・各種健診・人間ドック
- 入院許可ベッド数 99床
- 一般病床:49床(特殊疾患病棟入院料1)
- 医療療養病床:50床(療養病棟入院基本料1)
- 腎センターベッド数37床(最大受入患者数114名)(夜間透析実施中)

医療法人千徳会

- 本部 〒649-0304 和歌山県有田市箕島1265
電話 0737-83-1000 FAX 0737-85-2640
- さくら訪問看護ステーション 〒649-0305 和歌山県有田市港町29-1
電話 0737-83-0077 FAX 0737-83-0079



千徳会 理念と基本方針

千徳会理念

1. 信頼される医療
2. 安心・安全の医療
3. 慈愛あふれる医療

基本方針

1. 思いやり(相手の立場になり考える)
2. 感受性を豊に(小さなことにも感動を)
3. 創造性(常にチャレンジ)
4. 合理性(道理に適い能率的に)
5. 自己研鑽(常に学習を)

経営理念

「職場は、職員共同の生活の源泉であり、人間完成の道場である」
 「我々は最大の病院になることを望まず、最良の病院になることを望む」

社会福祉法人守叅会

- 特別養護老人ホーム田鶴苑(介護老人福祉施設・短期入所事業)
〒649-0316 和歌山県有田市宮崎町911 電話 0737-82-6644 FAX 0737-82-6609
- デイサービスセンター田鶴苑(通所介護事業)
- 訪問介護田鶴苑(訪問介護事業)
- 有田市在宅介護支援センター(居宅介護支援事業)
- 特別養護老人ホーム愛宕苑(介護老人福祉施設・短期入所事業)
〒649-0305 和歌山県有田市港町9-1 電話 0737-82-0600 FAX 0737-82-0606
- デイサービスセンター愛宕苑(通所介護事業)
- ケアハウス愛宕苑(地域密着型特定施設入居者生活介護事業)
- グループホーム愛宕苑(認知症対応型共同生活介護事業)
〒649-0305 和歌山県有田市港町29-1 電話 0737-23-7177 FAX 0737-83-5501
- 特別養護老人ホームありだ橋苑(介護老人福祉施設・短期入所事業)
〒649-0314 和歌山県有田市野639-2 電話 0737-83-6255 FAX 0737-83-6260
- デイサービスセンターありだ橋苑(通所介護事業)
- 養護老人ホーム長寿荘(養護老人ホーム)
〒649-0315 和歌山県有田市山地57 電話 0737-82-2946 FAX 0737-83-2640



第39号
2019.1

明けましておめでとうございます。
 謹んで年頭のご祝詞を申し上げます。

医療法人社団 千徳会

理事長 成川 暢彦



今年は、新元号が施行されるという、大きな節目を迎える年となります。元号が変わることで、新しい時代の到来へと、期待を膨らませている方も多いと思います。

これからの時代、最も注目を集めているのは、IPS細胞の臨床導入とAI(人工知能)の導入です。特にAIに関しては、会話をするロボットや自動運転ができる自動車といったものが、実用化の段階へと進もうとしています。

医療の世界でもAIを利用して、膨大な医療データや画像を使用して病気の診断を行うといった研究開発が進められています。

ただ、こうした時代においても、人と人との信頼の絆といったことの重要性は変わりません。今後も、桜ヶ丘病院は、地域で信頼される病院として、かかりつけ医と患者さんという絆を大切に、地域医療に貢献していきたいと思っております。

本年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。



『腎臓病の検査～血清クレアチニンについて～』

小田 稔 腎センター長

血清クレアチニンは腎臓の働きに異常が起きていないか調べるために使われます。クレアチンは筋肉がエネルギーを発生させる際に作られる老廃物の一つで、そのほとんどが腎臓の糸球体から排泄されます。そのため、血液中のクレアチン増加は糸球体のろ過機能が低下していることを意味します。しかし、クレアチンは腎機能(糸球体ろ過率)が50%以下になるまで上昇しないため、クレアチンが上昇した時は糸球体ろ過機能が半分以下になっていることを意味します。クレアチニンの数値は日常生活で起こる軽い脱水や運動により変動しますので、継続して数値を追っていくことが必要です。

基準値に関しては性別・年齢・体格などによって多少の違いはありますが、当院では血清クレアチニンが男性1.1mg/dl以下、女性0.8mg/dl以下を一般的な数値としています。また、患者状態にもよりますが、8.0mg/dl以上になると透析導入の検討を行っています。

当院は日本透析医学会認定施設で、認定医が2名常勤しており、外来での保存期治療から透析導入、維持透析、LDL吸着などのアフターケア療法を中心に行っています。

腎臓病・腎機能障害は、早期に発見し適切な治療を行うことで病気の進行を遅らせることが可能です。患者さんをご紹介いただいた場合は、かかりつけの先生と連携を図りながら、治療を進めております。腎臓に関してお気軽にご相談いただければと思います。



●介護支援専門員合同勉強会 (平成30年11月20日)

第2回目となる今回は、介護支援専門員の方々の普段の業務にお役立て頂けるようなテーマで、湯瀬敦薬剤師による「高齢者における薬に関する注意点」と、水田達也言語聴覚士による「在宅でできる嚥下リハビリ～アセスメントと食支援の実践～」の講演を行いました。



●第31回 院外糖尿病教室開催 (平成30年11月15日)

当院では、11月の全国糖尿病週間に合わせて毎年糖尿病教室を開催しています。今年もオークワ箕島店にて、医師・薬剤師・管理栄養士による健康相談や栄養指導、血圧・血糖・体脂肪の無料測定などを行い、46名の参加がありました。



●第26回 日本慢性期医療学会 in 鹿児島

(平成30年10月11・12日 於:SHIROYAMA HOTEL Kagoshima)

テーマ
「病院での認知症カフェ開催
の意義と今後の課題」

発表者
児嶋 剛弘 看護主任



一般演題座長
濱 真理子 総看護師長

●第23回和歌山県病院協会学術大会・第17回和歌山県病院大会

(平成30年10月28日 於:ホテルアバローム紀の国)

テーマ
「人生の最終段階における医療での
栄養療法に関する意識調査
～医療従事者の観点で～」

発表者
北山 佑貴 看護師
(嚥下・栄養サポートチーム)



◆優秀職員会長表彰
濱端 一吉 臨床工学技士長(勤続22年)
◆永年勤続者会長表彰
片山 由美子 看護師(勤続21年)



労働安全衛生委員会の活動について

労働安全衛生委員会では、職員の健康状態の把握や防災訓練の実施、防災対応に関する教育などを中心に職員の健康と職場での安全を守るために活動しています。

職員の健康に関しては、身体健康管理だけでなく、ストレスチェックやアンケートを行いメンタルヘルスケアにも努めており、職場の安全においては、防災訓練を年2回実施し、地震や火災を想定した対応や患者避難などについて訓練や消防署隊員指導のもと心肺蘇生法やAEDの使用方法などの実技訓練も行っています。

昨年は和歌山県に大型台風が立て続けに上陸し、防災対策の重要性を再認識しました。当院にも防災対応マニュアルがありますが、マニュアル通りに対応できない部分もありました。各部署からの意見を聞き、実践可能なマニュアル作成を行い職員が迅速な行動を取れるようにしたいと思います。



防災訓練の様子

また、当院は災害時医療支援活動指定病院であり、AMAT(All Japan Hospital Medical Assistance Team)隊員養成研修を修了した隊員が所属しています。院内だけでなく、院外への活動にも目を向け取り組んでいきたいと思っています。

また、当院は災害時医療支援活動指定病院であり、AMAT(All Japan Hospital Medical Assistance Team)隊員養成研修を修了した隊員が所属しています。院内だけでなく、院外への活動にも目を向け取り組んでいきたいと思っています。